

KK通信

第7号

昭和二十八年四月一日発行（毎月一回一日発行）
発行人 吉田 稔 編集人 箕田 京二
発行所 大阪府堺区内菅原通四ノ三〇 曙書房
定価 二十円（振替口座大阪三三九五六番）

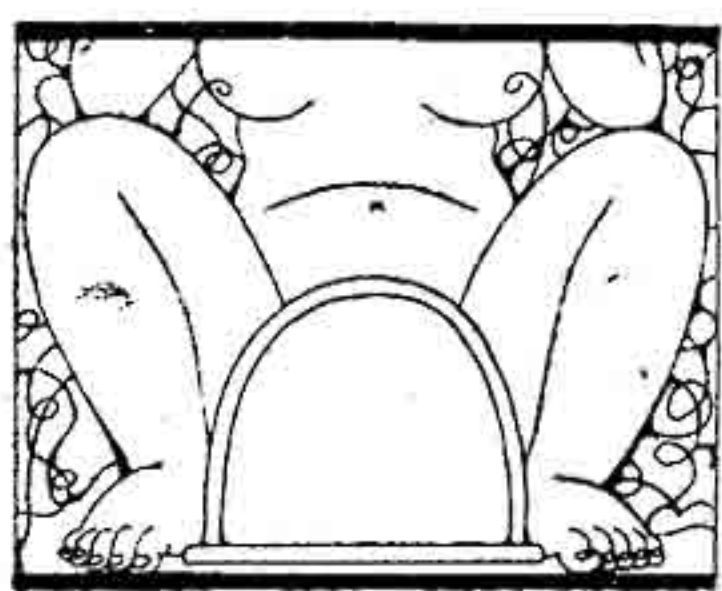
三月号で全く凄いと感心したのは、升岡さんの「縛られた女優たち」よくまああれだけ見集められましたな（多分僕なんかの生れる前からでしょう）ポップ・ホープも玉子博士になったんだから升岡さんもその道の博士にしたい所。

最大の魅力は皆がそのスターを（顔つきも肉つきも）知っていると云う事、又それだけの寸評が利いています。あゝ、あんな映画にそんな場面があつたのか、ならば見て置きや良かつたと、ごまめの歯ざりしするのが沢山ありますね。

魂をとろかすばかりのスチール写真に魅かれて飛込んだら、何にもなくて、ゲンナリ、ポカーンとした顔は我々から見られたもんじやないだろうと想像します。かと思つと、スチール写真に何にも出ていないから、女を縛る所なんかあるまいと思つてみると、反つて凄いのがあつたりして、その後の口惜しさつたら——オホン、どうも世の中はうまく行かんものです。

もう一つ、おつたまげたのは、宝塚さんの「僕の責め方」④から始まつてラに至る三十一人、然もまだく續くてんだから、女と握手した事もない僕なんかには何ともはや「偉い」（皮肉に非ず）アブノマリツクな論議でテレカクシするヤボは真平である（？）とタンカを切られても、こちらは一言も御座居ませんこれでも一度恋をした事があるんです。電車の中だね。最初の時はホレどと（

コソリチラ〜）眺めて、二度目にパツタリ目と目が合った途端（イヤ、たしかに彼女は僕を見つめました）にカーツポーツとして終つて、最早何ものも見えず、おかげでその娘、どの駅で降りたのやら、本を讀んでいたの（逆さに讀んでいたかな）そのくせ全神経を後に集中して居たのですが、いやはや我々ら意気地のない事かな、年の頃は十五、六七、八位だと思ひます。何しろ見つめる等と云う大それた事は出来ないんですから、輝く女神に出逢つた様なもの、まあ



かん じん まん ご 閑 人 漫 語

黒 井 珍 平

て、悪しからず。
「僕の記録」について色々御批判、御賛同を戴いた事を嬉しく思つております。とりわけ、和歌山の佐渡氏、兵庫県KO氏の如く「のび〜と自由に昇華して行こう」と云う御意見に賛成します。
世の中には、大してひどい変態者でも無いのに、ハシゴが後に有るもの知らず穴ぐらの中で「俺は一生救われぬアブニストだ」と絶望している人が「奇ク」のあるの知らない人が、まだく沢山いるんじゃないでしょうか？

しくて、美人であつたかどうかも忘れた位です。それつきりでもう一年近く恋いこがれて、目を皿の如くにして探したんですが「時」と申す魔物がおりまして、遂に失恋とはなりにけり、あきらめました。
奇クを讀んだり、縛つた女を好きだ等と云う人間が、何をくだらない事と云うかも知れないが、毎日電車で何百何千の（凡ゆる年輩の）女性と顔を合わせていたとて、こんな事があつたのは後にも先にもたつた一遍なんだから、恋心に免じ

然し僕がこういう気持ちになつたのは極く最近でした。それ迄はこの事に対する宗教的罪惡観の為（キリスト教に身を置いていた為）七転八倒していたんです。その為になんか自分を見失つてしまつた。陰気にさせたか知れませんが、その劣等感の泥沼から脱出しようと思はれる程アブノマルな傾向はそれに比例して強くなつて行く。
自分は自分の欠点に目をやぐ事もなくする事も出来ない。最早、一旦交通違反のために、自動車にはねられて、切

美人の要点は脚にあり

時代の變遷に従つて美人の美の標準が變つてきた。特に最近では現実の生活に重点を置く事になつて女性屈從時代の昔は「雨に悩める海棠」のような柔和な美としたが現在では健康体を表現する肉体美を尊ぶ事になり、容顔の美よりも脚部の美に注目するようになった。然し日本人は古来足を敷物にしてその発達を妨げて来たからどうしても欧米人に比して劣るのはやむを得ない。若い女がストッキングをはいた脚を露出して街路を闊歩するの足的美を異性に誇示し牽引せんとする傾向である。裾がまくれて素足が露出するのを醜態と云われるが私から云わすれば美態であると思う。（柿本悦郎）

られた腕を如何して直せますか？目をやぐ事が出来ますか？そしてそれはその人だけの罪ではないんだ。自動車、ひいては自動車を生産する社会、自動車を發明した人にも責任があるのだ。如何して凡ゆる罪を自分一身に背負つて耐え忍べますか？
それより、はつきり自分を見つめて欠点を美点に迄のぼして行こう。自分が変態になつたと云う事は、自分だけの汚名ではない。人間の本性と、複雑になつた現代社会の責任でもあるのだ。それを昇華させてのび〜と行こう。そう思つたのです。そこ迄如何して漕ぎつけたか「僕の記録」の續きを書いていきます。
繰り返して云いますが、僕は禁慾に朝晩努力していた時の方が、今よりもずっとく「淫獣」でありました。

新時代の風俗雑誌

月刊奇譚クラブ 定価 百円
（送料共）

（第七卷第四号）四月号発売中

他に類例のない異色ある編集、古今東西に亘つた豊富な内容、前衛的風格を持つた唯一の風俗雑誌奇譚クラブは真摯な編集陣の努力と熱狂的な読者の支持によつて此処に齡七年を迎え、今や確固不動の揺がざる基盤を作り上げました。
直接購読予約会員の激増により、読者による読者のための雑誌という本来の目的に向つて邁進することが出来るようになりました。今後号を追うて益々充実発展、以て愛読者の御期待に副いたいと思ひます。

●奇譚クラブの旧号（バックナンバー）は左記の通り在庫してあります。

- 八月号 責めと男色特大号
- 九月号 倒錯の告白特集号
- 十月号 切支丹迫害史特集号
- 十一月号 宗教刑罰戦慄画譜
- 十二月号 感潮の愉快特集号

右は送共九十円にてお送りします。

七月号以前は全部売却となりました。
新年号 縛つた女を描く

二月号 責めの小説特集号

三月号 東西拷問くらべ

二十八年新年号以後の本誌は送共各百円にて急送します。各月号の詳細目次は最近号に発表してありますから御覧下さい

●直接予約購読者へは毎月厳重荷造の上書店発売前に発行所より読者へ第二種便にて直送致します。

●KK通信第四号まで品切第五号、第六号は若干残部があります。

レッド・ルーム 赤い部屋

(三)

山城 一男

私はミチコを風呂から上げると、レッド・ルームの寝台の上に転がして置き、部屋の中央のテーブルを起して横にします。こうすると、テーブルの脚が彼女の四肢を結ぶのに都合よくなります。

私はテーブルの脚に彼女の裸体を大の字に立たせた恰好で縛りつけました。尤もそんなに大きなテーブルではないので両腕は関節から曲げて縛りました。そして腹部一面に赤インキをぬり、その上にクリームをすり込むと、赤い電燈の下で彼女の四肢を横げた姿は、著しく煽情的になりました。私は彼女の腹部を、細い木綿の縄で力いっぱい締め縛りました。彼女の下腹部が鋭い曲線を見せて膨れ上がり、少し苦しそうでした。

そうしておいて、革の鞭で打ちました。特に太腿の内側と股間の柔らかい肉のところ、それに腕の内側、肩等をビシッと打ちました。腹部を打つと、腸ねんてんが起ると云われるので止めています。彼女は悶え続けていました。

テーブルの脚から外す時の彼女の膚は火のように燃えていました。

次に吊し棒のところへ引き立て、後手に乳房から首へと固く縛り床の上に横にしました。そして両脚を一ぱいに横に吊し棒に別々に結びつけました。この吊し棒の高さは一米程しかないのに、彼女の頭と肩は床についています。

私は太手のローソクを棚から取り出し

て来て、横げられた彼女の……。そして火を点けておいて、椅子に腰を下し夜の食のパンとミルクをとりました。

ローソクが少し傾いて立っているのドロくろに溶けた蠟が、ダラ／＼したり落ちるので彼女は悶え続けました。ローソクが短くなつてくれば、それだけ悶えようも激しくなつて来るのです。

ここまでくると私も相当に疲れを感じましたし、彼女も今にも気を失うかと思われるような悶えようなので、ローソクを吹き消して、ミチコを吊し棒からはずし、両手も一応解いてやりました。さてそれから一時間程も休んだでしょうか。今度は彼女の両手首と両足首に厚い羅紗の布を巻きつけました。

磔にするためです。

部屋の一面の壁に柱が十字架に組んであります。その前で彼女を踏み台の上に立たせ、両手を横げて横木にしっかりと縛ります。そうしておいて踏み台をはずすと彼女の裸体は両手を横げたまゝぶらりと下ります。此の場合足先と床との間は十厘ほど離れているのです。そこで足首を横げて下の横木に固く取り付け、胴と縦の柱とを結ぶと、理想的(?)な磔となります。

彼女の素つ裸体の磔も私の気に入っているものです。長時間そのまゝの姿勢でおれるように、手首と足首には羅紗が巻きつけてあります。そうしないとその

縛られた部分が腫れ上がり、皮が破れるからなのです。ミチコは両腕を一ぱいに横げ、腋の下はグツと落ち込み、両足も固定させられて、見事な彫像のような姿のまゝ、頭を前にうなだれていました。

私はふとしたらずら気を出して、身動きも出来ないミチコの腋の下や、その他の最も敏感な部分をコチョコ／＼と擦つてやりました。彼女は飛び上るように四肢を固く硬直させ、猿轡の下で呻き声を上げながら、頭を左右に激しく振つて悶えま

した。真白な喉、盛り上つた乳房、すべすべと淫んだ腋の下、子供を産んでいない腹部、肋骨と腹部との境の張り切つた皮膚、此の下に胃袋があるのでしょうかヴィナスの丘、柔らかい腿の肉、そして美しい足の裏等……。私はそれらの部分を、思う様に突いたり、撫でたり採んだりしました。その度毎にミチコは自由を奪われた足を必死に縮めようとしたり、足指を曲げたり反らせたり、胴をくね／＼とくねらせたり、それはもう、気違いのように悶え続けて、その間中猿轡の下からは異様な呻き声を洩らしつづけていました。

どんな責め方をした時でも、彼女がこれ程に呻き悶えたことはありません。その証拠に彼女の全身からは苦悶の脂汗がジリ／＼と流れ出ていました。声にならない声は、泣き声ともつかず、笑い声ともつかず腹部や胸部は激しく波立つて手足はビリ／＼と電気に／＼つた様に震え続けていました。

彼女がいゝ加減参つたところで、そのまゝにして居室に戻り時計を見るともう三時近くになっていました。

私はその儘、寒いのと疲れたのとでベッドに入るとグツスリと眠つてしまいました。そしてふと気がついて眼を開いた時は、外はもう白み／＼つていました。

急いでレッドルームに行くと、磔のまゝミチコはぐつたりとしています。直ぐさま十字架から下して居室に抱き入れ、ワインを含ませて、全身を摩擦してやりました。手首には羅紗が巻いてあつたのに、縄の跡が付き、掌は紫色に変つていました。

私はそのまゝベッドにミチコを寝かせて休ませました。勿論彼女の両手は前にして手錠がはまつています。こうして夜明けから昼過ぎまで眠らせておくと、彼女の全身は元の健康な色を取り戻すのです。ピタミンと葡萄糖とを一緒にして静注することも忘れはしませんでした。

私はミチコをベッドの上に寝かせたまゝ、此の原稿を書き始めたのです。夜はすっかり明けそめて、朝の光が居室の窓から差し込んできます。ミチコの責めは今日と明日とで満期です。彼女は此の間決していませんが、生命さえも私に託すつもりで居ります。しかし私は決して彼女の生命を断つたり、不具者にはしたくありません。

その為に私は此の三日間の遊びが終ると、大體責めの期間の五倍以上を彼女の休息と静養に与えているのです。彼女自身は望んではいないのです。

そして、いゝ男があれば嫁がせて平凡な幸福な生活をさせてやりたいと思ひます。さあ、まだ／＼私の好きな責めの型が残つていますから手紙はこのくらいで勘弁して戴きます。これからその用意をしなければなりませんから。(完)



此の欄は会友諸氏の為のものです。御自由に御投稿下さい(係)

今度、第一回座談会が開催されるようですが、非常にうらやましく思つて居ります。何故と申しますと私は東京在住でございますので。そこで企画部の方にお願ひ申し上げますが、是非一度関東方面に於いて座談会を開いて戴きたいと思ひます。会場の点は最悪の場合は本誌又はKK通信でも募集致したら解決出来るのではないのでしょうか(東京粕川)

新年号発禁のことは初耳でした。KK通信を見てもう一度その箇所を読み直して見ましたが、藤安節子さんの言の通りその箇所が発禁の理由になるとは不思議に堪えません。当局者の神経に疑いを抱かざるを得ません。どうか不動の方針を以つて従来以上のよき編集をお願い致します。毎号期待されるものは、鬼山氏の作品「らぶ・すれいぶです」。運筆の達者さもあることながら、主人公の性格には、良／＼似た私の影像を見るようで、しば／＼心臓をドキリとさせられます。插画について作者の御希望があるようですが、私はあの特異な筆致によつて表現される画の魅力を好ましく思つています。三月号では、小坂多美枝さんの女囚私刑体験記を随一とします。刺戟の強烈さには果敢たるものがありました。おそろしく事実をもつと凄惨なものであつたでしょう。小坂さんの今後を多幸なれと祈つて

本場の処その法外な報酬の力か？或いは、日頃の彼の内攻性の爆発した慾望でか……或いは、もつと別な……頭の芯までしびれる様な、どろどろした魅力なのか？それは解らない……しかしながら彼のあの日、始めて経験した猟奇の館でのアルコールにみだれた頭で契約はしたものの……酔もさめた後では、本来の小心者の彼には随分迷い、又考えもしたにちがいないのである。

それなのにそれ程、いざ作り始めてからも苦しみ、何度も躊躇したにもかゝわらず、来る日も来る夜も、彼は、其の仕事、投げ出す事は出来なかつた。

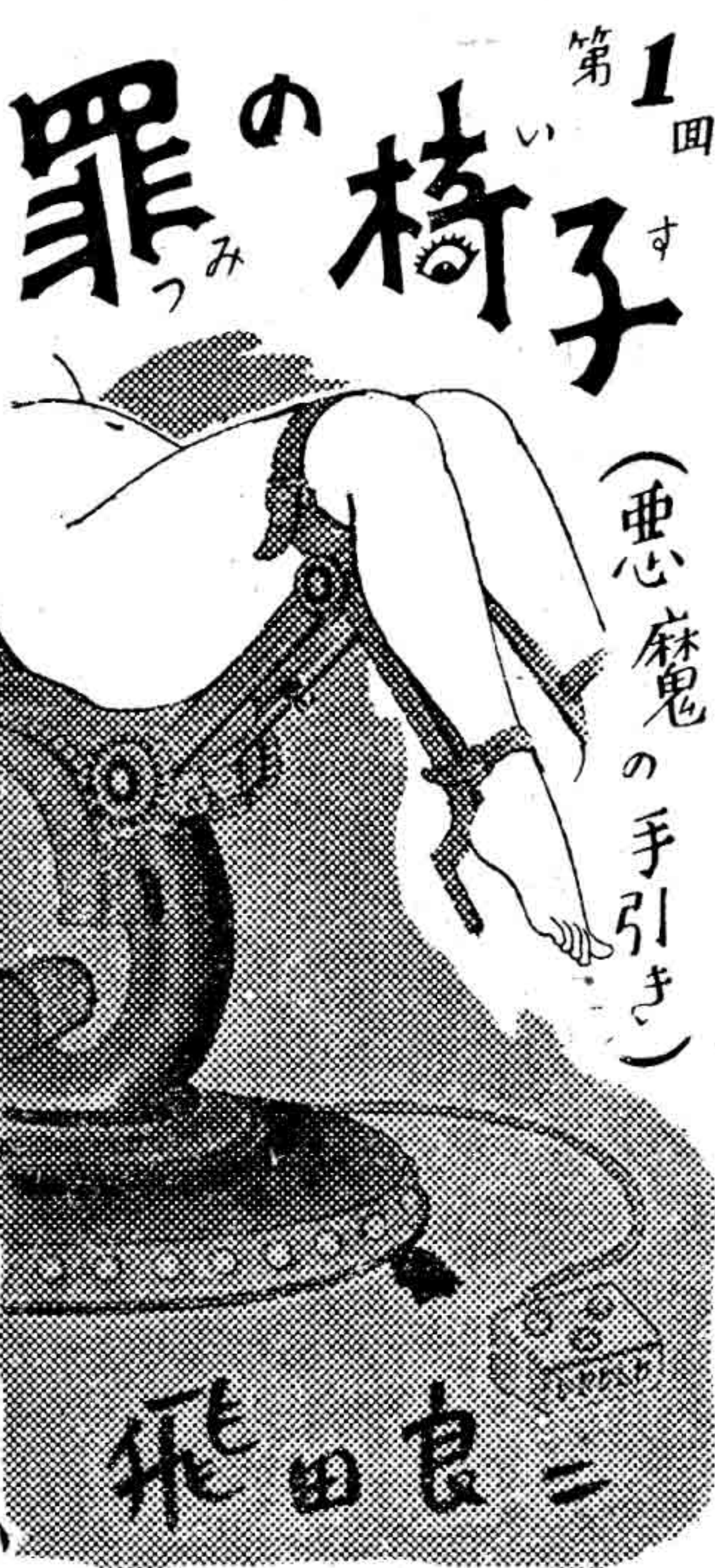
いやそれどころか、一層食事も忘れて打ち込んで行く自分自身を、どうするとも出来ず、そしてとうとう、完成して彼の目の前にある一個の物体……それは、何んとも云えぬ冷たさ……を秘めた異様な形態の「椅子」であつた。

此の異様な椅子を作り出すまでの彼はすくなくとも平凡な内気者の一椅子職人であつたのである。年は三十を数年前に数えながら、未だ獨身を続けている理由は、何か、その体に一人前でない処があるのかも知れないが、親も兄弟もない彼が、椅子と云つても、木を削つたりする家具の類でなく、さうやかながらも、モーターも廻れば、旋盤も動く、ちよつとした町工場を持ち、何の道楽もなく、ただかなり高級な椅子ばかり、こつくと作る事を喜びとしていた、ありふれた人間であつたのである。

その彼がほとんど病的なまで夢中になる様な、今度の異様な椅子を注文した男は、Mという彼の学校時代の級友の一人であつて、或る新興財閥の御曹子で、何

んとか云う演劇団体に關係があると云うだけで、別荘まで持ち、高級車を乗り廻しているといつたかなり出たらぬな、気まぐれな遊びにふけつて一異常性格者であり、付合などきらいな彼は、あまり虫もすかないし、又親しい間柄でもなかつたのである。

処が偶然、或る飲屋で一しよになり、昔話が、現在に及ぶうちに聞き出した彼の職業から急に一段と親密さを現し再会を約して別れた事があつた。そして、その次の日には、もう、高級車を飛ばして彼を迎えに来ると、無理やり引っぱり出



されて、連れて行かれたのが、彼など全然名も場所も知らない、或る特別の観客物まで用意している料亭で、其処で彼はしたゝか酔わされ、取りまく美人連のむせかえる様な、怪しげな雰囲気、すっかり上気してしまつたのである。そしてその上、彼は噂や小説の上だけでは無い実物を観せられたのである、それは例の秘密映画、そして又、実際の男女のものすごい実演であつた。

此処に及んでも、善良な彼にはMの打つたお膳立など解し様もなかつたのであるが、一方Mは、此の生まじめな彼を平

ば陥落させた雰囲気、秘かにほくそ笑みながら、持ち出したのが五万円の謝礼(価格以外に)と、最初の実験には、特に秘かに隣室からのぞき見をゆるす。という餌をぶらさげた、此の異様な椅子の製作の一件だつたのである。

それから二ヶ月余り、彼の良心の叫びを押さえつけて、何物かの恐ろしい力は彼の仕事熱心と器用な腕に拍車となり座婦人科の使用する特別製の椅子も作つた経験が役立ち、最も完全に、その椅子の能力を発揮すべく、来る日も来る夜も考え続け、改良を重ねて、遂に他の急ぎ

の注文も手がつかすになつてしまつたのであつた。

一方、此の椅子の組立てには、特に注意されるまでもなく、一切を秘密として必要以上に、彼は用心を払い、とうとう自宅も職場と化してしまつた程で、彼自身、めつきり肉の落ちも感じる程、憑かれた様に、だんく組上る椅子の上におどる白い肉体のあらゆる線を想像してはその性能を一層罪深い残忍なものにして行つたのであつた。

そして、後日おとすれたMの要望により、或る種の電気装置まで、その脚部に

納めた。此の異様な椅子は、まる二ヶ月でやつと完成し、後は愈々Mの別荘に運ぶまでとなつたのである。

彼の内蔵する異常心理の結果？である。此の「罪の椅子」……そうだが、罪な事だ、此の椅子が一旦彼の手に入れば……恐ろしいまで「無惨な遊び」が待っている。その罪を作り罪を重ねるであろう、此の椅子……

とうとう作り上げてしまつて、彼は今さらながら、自分の良心の叫びに、うちすえられる思いであつたにちがいないのである。

先ず此の罪深い椅子の置かれる場所、それはMの別荘の地下室で、その秘密の部屋には彼の愛慾的な感情を満足させる為、あらゆる道具をととのえていた部屋であり、此の罪の椅子を取り付ける前面の壁と、天井には一間四方の大鏡まで準備してある。そして何よりも恐ろしい事は、此の密室で、此の椅子で「もて遊ぶ」為にはMのあくなき獣心は純真無垢の生娘の輝く裸身に白羽を立てるも今頃は、Mの部下達が目星をつけたその娘に麻酔を掛けて自動車で拉して来ているかも知れない事である。何んでも思うまゝのMに出来ない仕事ではないはずである……

さて、此の椅子の目的……それを重ねて云うならば……その美しい処女の裸身を一枚の鏡の前で、あらゆる姿に、角度に、ゆがめて見せ、のぼしてみては、その絶望の果にもたえて、羞恥と苦痛に打ちのめされながら……どうにもならずその椅子の動きのまゝに見え知らぬ男共の獣心の前にさらされ、あやつられる、羞しくも悲しい姿を…… (以下次号)

います。便所への幻想……芳野眉美氏はもつともつと、何かを言いたいのではないでしょうか。作品の裏から作者と一緒になつて私は異様な焦慮を感じます。つづけて書いて下さい(福知山 河直田)

三月号所感

吾妻新氏作の「サディズムの精髄」には同感です。記事中の「スポンは肉体の線に合せて作られるものです。どのような密着させることができるし、どの程度に想像の余地を残すかも自由です」は私が今迄考えも付かなかつたところであつて、うれしく思います。喜多女史に御願ひして「この線」の挿繪も発表して欲しいと思います。

梅井清氏の「第七天国」中、十二月号の古川さんの「囚衣」が抜けているのはがっかり。私ならベストテンの第一位に推すのだが。

高野さんの「艶書通信」面白く読ませて貰いました。喜多女史の返信が見たいと考えるのはあながち私ばかりでもないでしょう。

升岡氏の「縛られた女優達」よくもあれ程昔からの女優の名が出たものでびっくりしました。映画代を大分費つた事と思ひます。それとも映画に關係して居る人でしょうか？とにかく好きならばこそ、これだけ調べられたのだらうと思わず感心しました。

松井女史の「淫火」には出来ることなら前回までの解説を付けてほしいと思ひます。新しい読者の為にはぜひ願ひします。

○

KK通信の皆さんへ
さて毎月のK通信は今や恋人に会うよう

【本誌十二月号読者通信 F・T 生よりの送稿】

宝 塚 二 三 夫



玲

(ム) 池口千代子 二十三才、洋裁生徒
余り美しい色肌ではないが精力的でよい。壁ぎわに押つけ両手ハリツケ型に擴げて唇を合かし前歯を合わしガク／＼とすり合わしてやると、ウムム、、、、と云つてスク腰を抜かして終うくせにいつまで責めていてもネを挙げぬホルモン娘。

(ウ) 木村初子 十八才、女工員
これも肌色はよき女でないが葉すつばな所によきものあり。よいかげんにあしらつて置くと何とか腹を立てて工場、の奥へ奥へと逃げ込んで誘導して行き物置のむしろの上へ殊更に倒れる女、そのくせ一責めしたあと縄をたゝきつけ、ズロスもぬぎ捨てたまゝムツツリした表情で走り去る女。

(キ) 伊予木貞子 二十才、交換手
乳白色、脚の太さはまさに随一の肉

感美味の肌じまり、男性的な美人。うしろ向きに立たし、しつかと握り締めた縄目の手を見つゝ腓脛を染しむためスカートのすそを手の縄目までたくし上げて置くと耐らぬ快感がしみ出してくる。盗聴されたいため責のせりふのやりとりも亦愉快なり。口先だけはいつも「イヤツイヤツ」

(ニ) 前田輝代 二十四才、ダンサー
職業柄マサにヤセ型、ホルルの四帖半で両手指からませ、後手にねじつて掴み乍らのチークは又格別の味、ボクの部屋の中では少々責めても肉体的に味の出ぬ女、よがる事だけは一人前。

(オ) 赤根浜江 二十才、令嬢
完全なお嬢さん、大学教師の娘、和洋装共完璧、純白無垢の肌、人形を責める感、この項は本曲で楽しんでもらおう。

(ク) 中川芳江 十七才、舞妓

さすが十指の美形、余り美しい脚なのでひざ頭を噛むと「旦那さんのお口がクサリますワ」縄かけるとやはり「勘忍しとくれやす」剥くと「アレー」は定石か？
(ヤ) 中川琴奴 二十四才、芸妓
さすが一本だけあつて金だけではOKと落ちぬ。ボクには縄をかけられ乍ら「どうなとお好きなように……悪い病ですナアー」

(マ) 弘野多美子 三十才、旅館主
所詮ボクの片棒を分担する女、よき伴侶者、まさに勝気な美人。こんな女がボクには縄で打たれるとは、オシヤカサマでものとえ通り、その代り僕の代りにいくらでも縄を打つてくれるし責の演技の演出家となる女。先ず立役者、詳しくは本文で、斜めに唇を噛みしめて縄尻を持つて引立て、ボクの前で突ころがす姿は将に百万両、女が女を責める姿も、又万両。

(ケ) 明石瞳子 二十二才、映画館案内嬢
特長ある表情、肥り肉、いさゝか大柄ズンケリした肉付、将に小麦色、色肌、美味い脚、恐らくこの嬢程ボクと、珍奇皮肉、数奇な組合せは一生一度より無いであろう。この女を得るまで足掛四年全く小説以上のものである。今逆吊りまでする仲であり乍ら、未だ心打った談合はしていないのである。

彼女はボクをにらみつけたまゝ、無言の内に女体を溶かし、ボクの一方的命令を受けて又にらみつけ乍ら帰つて行き、どんな事があつても必ず命令通りする女。瞳子の初対面から現在に至る四九年自分でも信じられない位だが今ボクは現在

短 信 往 来

▲読者座談会の熱心な参加希望者が殺到
特に次回は東京都内にて開催するようとの強い要望がしきり、今回は松井頼子さんとの打合せも完了、愈々近日中ベストメンバーを揃えて開催の予定です。どうか記事発表の五月号を御期待下さい。

▲第一線紳達作家の覆面がぞく／＼と本誌に登場、これから発表される傑作が楽しみです。本誌専用の筆名にて本年は縦横無盡に腕ふるうと各作家陣からの力強い便りに編集部一同大いに張切つています
▲前号にて特別会員の件について一寸触れましたところ早速御問合せの手紙が机上に山積、中には或る出版屋では特別会員募集で会費だけ徴集してあとは雲を霞と消えてなくなるのがあるそうだが貴社は如何かと御丁寧な照会もある。いやはや、てんやわんやの大騒ぎ、広い世の中だからそんなものもあるかも知れませんが弾りながら此方では……と申し上げたい
▲最近どうした事か女性の読者の方々からの通信が多くなつてきた、でも何れもこのお便り読者通信には載せて下さいますな、とはとても残念な、矢張り女性特有の引込み思案の然らしむところか。

▲本誌の発表が少し遅れると、もう手紙や葉書でやんの催促、これだけ熱心に支持して下さいる読者層を持つていると心強いやら慌てさせられるやら……時節柄御心配下さる気持はよく分ります。

▲黒髪問答について伊藤氏と黒井氏への賛否両論がけん／＼とく／＼として編集部の机上で葛藤、誌面があつて発表出来たら面白いらうとの言、中には声ありそんなつまらぬ事はやめろ！

に楽しみます。第五号の巻頭兵庫の木下氏の提案に大賛成です、私も以前から此の種の計画を持つて居り、一、一度小さいグループの会合に成功しました。KKクラブの諸兄弟姉となら、絶対に有意義に成功致すことを確信します。

但しこれは、各地区毎に一グループを作らないとすぐには実行出来ません。この地区に（私は福岡ですが、近郊の諸兄いますか？）在住の同志の中で一人リーダーの人に出ていただき会員の会合などの事務をやつて貰うのです。郵便連絡による会員のリストがリーダーの所に集まりましたら、適当な時と場所を選んで会合するのです。会員についてはリーダーは絶対秘密を守り会員同志はお互の身元等個人的なことについては不問の規則を作つておきます。そして木下氏の計画のように温泉旅行もよく歓談座談会等を行います。尚、会費は実際の経費にとゞめ又月一回位の定期会合、その他を決めて置くのです。各地区にグループが出来れば、地区間の相互交歓も可能です。KK同志の皆様、如何でしょうか。三月か四月には是非各地で第一回の会合をやりたいものです。（福岡志野好夫）

○ 三月号を入手してホツと致しました。KK通信も倍大されて内容も充実し益々発展して来るので喜ばれています。

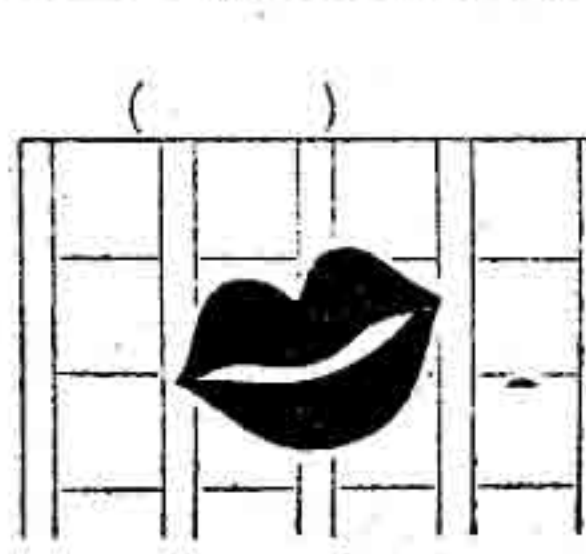
6号のK通に特別会員のことが少し出ていたのですが、機関誌と云つたものを出されるのでしょうか？現在のK通のように無料配布？（直接読者の場合）のかたちではなくて、特別会員からは一定の会費を徴集して機関誌を発行して下さい。普通会員は本誌だけの読者として特別会員は別に

「これ限りが別れになるか？」と覚悟しつゝ責め立てゝいる不安定感を持つているが……。ボクとして、この女に対する程、魅力を感じた事は、かつて一度もない。

この女との責合戦をライナーレとするつもりである。

以下ボクの関係会社の事務員で肉体関係の有無を不問一応責の相手となつた女

- 櫻野 雪子
 - 佐々木 八重野
 - 佐々木 ます子
 - 渡上 弓子
 - 小八林 節
 - 風早 章子
 - 湯上 和子
 - 田中 とし子
 - 川上 君江
 - 橋爪 初子
 - 多和田 ヤエ
 - 笹部 末乃
- いずれも一、二の変わった個性で楽しませる女達。
- さていよいよ本曲に入題するのであるが



編集部
だより

○諸氏の御希望によつて「続・錯乱の倫理」が本号のK通からお目見得する。それに加えて「罪の椅子」が登場して、いよく諸氏をナヤマセルことになった。

- 第一章 ボクの居宅
- 第二章 ボクの事務所
- 第三章 ボクの妾宅
- 第四章 ボクの遊車
- 終 曲 墮子との奇遇

としたい。

いずれにしてもタツタ一台のウキリスの大型ロードスターと一人の経費月一、二万円(中には完全無料が多いが)でボクの性的女責は何の不自由も感じない。

ボクが性的女責と云う限り懲罰的でない。勿論傷害でもない。あくまで美しい女のマゾヒスティックな艶姿である。然し責め初められる素人には縛つてゆく順序縛ること、責への話術、女の文藝節(うたい方)のダイゴ味又うたわし方。嬌羞の声と姿態美等。必ず同好の志の参考となると考へて余暇に一文を述する。

十二月号ボクの投稿に対しての序文による――

本曲に入るに先立つて
これから責のマニアになろうとする人又現在中途半端のまゝ辛抱している人及びあきらめつゝ空想的な夢に狂える人のためボクは一文を呈す。即ち誰人でも性的女責から一度でも女に縛をかけた

事のある人は縛り合わされた手首はさて両手の指をまぎ／＼眼下に見た時ホントウに美しいナアと感じた人は先ず無いであらう。足に至つては尚更の事、縄のかゝつた手足の表情に至つては失礼乍らカケ出しのマニアには不可能であらう。ボクにして漸く二、三に留まるのみ(くわしくは本文にて……)

結論を云うと云う人達はカメラによつて満足すべきである。写真は一切の肉眼的な欠点をカバーしてくれるからである。失礼乍ら、写真によつて満足される以外空想空論狂となつてます／＼その道のものに嘲笑されるであらう。

ボクも殆んど特にイヤガラヌ者以外ベーススタイルだけは撮つて置く(これは無言の威圧の材料となる)がボク自身今の所責に不自由していないので面倒臭いのでカメラは問題にしていない。

ボクの性的女責は刑罰好みでない。燃残虐性でない。忌まわしい変態狂でない緊縛と鞭打による陶酔である。そして消え入りたい羞恥の中から胸のうすく甘美感を与えるものである。今後引続いて述べるものを讀んでもらへば必ず敬服されるであらう。(以下次号へ)

けに挿繪が十場面もついている!!。

○飛田良二氏の「女王様ゴッソ」案外こんなことをやつてゐる人はあるんですよ。

○久留島洋氏の「我がマゾヒズムの半生」角田平八氏の「ある女のドレイとなつた男の手記」

○昨年九月号、倒錯の告白号に「僕と云う男」を書いた中野安太郎君が「悩ましいサディズム」を発表した森山美歌さんに虐められた……。これには編集部員も

驚きですワ。でもこれは本誌を通じての通信で結ばれたとの由。この原稿も面白い、第二の三吉になるのだから。

○おなじみ「らぶ・すれいぶ」第五回

○四月号に組めなかつた「雌獣の手記」は五月号に出現します。

○高月大三氏の「戦後に現れた挿繪に於ける責め」

○芳野眉美氏の「続・硝子便所」あゝ、彼の苦悩は永久に続くのだろうか。芳香と水滴の幻想の中に描く宿命の詩集。

○万円流捕縛の結び方のいろ／＼

○吾妻新氏「風流、責各態」新時代のサディズムのあり方はこうだ!!と云う筆者の思考が生んだ此の一端を先日編集部に見えた玲子女史に見せたら、あたくしも此の川柳のモデルの様に責められてみたいわ。と云つたとか、いえほんとですよ。

○松井籟子女史の「淫火」第五回。サディズムの画家、貴船一郎の出現そしてマゾヒスト村山の慾望!!雄作と邦彦の同性愛。小百合夫人の白絹の如き膚に縄を喰い込ませるものは誰か? トロ／＼と燃え上る淫火は全篇を覆つて……。

○「縛られた妻」の早川新一郎氏が最愛の彼女を得るまでの一篇「縛られた妻、以前」を送つて来た。お目にかけます。

○黒井珍平氏「僕の記録・完結篇」

○成瀬亮氏「偽られる殉教者」

○中康弘道氏「少年及び女性の切腹」

○それから……まだ／＼あるのだがスペースがないからこれで失礼。え? 玲子女史の口繪ですか? これは本場のナイスヨ五月号が出るまでのおたのしみ。

○口繪写真にはこれ又皆さまをアツと言わす企画をしております。

会費を出す代りに、機関誌の配布を受けると云う様にすれば如何ですか、要するに普通会员で満足出来ない人は特別会員になる訳ですがその為に要する多少の会費の負担は此の道の探究者にとつては物の数ではないと思ひます。

私の考へとしては愛読者に対する奉仕と云うK通のあり方が、種々の点で発展の邪魔をしないだろうか?と云うことを心配するのです。私の申し上げたいのは「奇ク」の他に特別奇クを出して頂きたいと云うことなのです、そしてそれは無料でなく虫のいいことは決して言いませんはつきりした会費をとつて載せて御誌編集陣のコツテリ脂の乗つた腕を見せたいと思ひます。此の私の提案を発表して会員諸氏の御賛同を得たいと思ひます。

(京都堀本厚司)

「第七天国の夢想」のように愛読者のベストテン投票をやつて見ようではないですか。KKの会員がその各自の趣味によつてベストテンを推し、その第一位になつた作者にはKK会費を贈るのです。これは編集に對する参考ともなり、奇クの発展にもなりますよ(東京川奈辺)

原稿募集

○読者の告白文
体験談性歴
を募る○

「奇ク」をお読みになられる方なれば、変つた経験の一つや二つはおありだと思ひますが、文章の巧拙等は問いませんから御遠慮なくドシ／＼お寄せ下さい。会員諸氏の分は優先的に掲載の上、薄謝を呈します。

——サディストの懺悔より——
続・錯乱の倫理
近東規矩也

【前書】

十二月号に錯乱の倫理と題して私のサディストとしての懺悔録を発表しましたが、あの一文を読まれた方々は余りにも悪魔的な私の乱業に対して、きつと激しい憤りを感じられた事と思います。特に蜜柑山に於ける女教員新子に対する暴行並に可憐純情な処女浜子に対する数々の悪業には自分ながら、いたゞまれな悔悟の気持ち一杯です。にも拘らず再び本誌上をかりて更に飽くなき恐るべき行状を發表しますのは、現在一児の父親として平和な生活を営んでいる私の過去の赤裸々な生活を恥しげもなく公開して、世の方々の他山の石として頂きたいと思うからです。どうか、そういった意味で此の馬鹿者の告白を蔑みながら読んで下さいます。

女性の肌着と云つても、私の頂戴する代物は靴下やシユミイズの類ではなかつた、よくストッキングを盗む人がいるけれど、私はそんな物には興味を感じなかつた。専らズロオスと腰巻、時に月経バンドが主な目的であつた。稀には桃色の寝巻や長襦袢を失敬することもあつたがこれ等とて、何でもよいと云う訳のものでは勿論ないので白と黒、ズロオスは二種に限り、腰巻も桃色と赤と白と青は好まなかつた。と云うのは白や青の蹴出し類は中年女か老年期の女性の所有物で、若い嫁入り前の娘は赤桃色を締めるに限られているからである。これは二年間に亘る処々の浴場覗きの経験から割り出した私の統計に依つて立證出来るのである。

【一】

私の東京に於けるアブノーマルな行爲は、女性の肌着コレクションに始まる。都築浜子に対する淫虐の嵐は私をしてマゾとフェチシズムの世界に耽美させる道を拓いてしまつた。私はおぼろに霞む春の夜毎、上野、御徒町、本郷一帯を歩き廻り、特に家並の建てこんだ裏町や、住宅街の庭先軒先を狙つては肌着を盗み取つて歩いたものである。それらは天候の良い日より曇つた宵に限つて収獲が

多かつた、だから降りみ、降らずみの日が続く夜など、一步裏露路に足を踏み込むなら、ほとんど軒並みと云つてよい程洗濯物が暗夜にぱつと白く咲き匂つて見えるのである。

女性の肌着と云つても、私の頂戴する代物は靴下やシユミイズの類ではなかつた、よくストッキングを盗む人がいるけれど、私はそんな物には興味を感じなかつた。専らズロオスと腰巻、時に月経バンドが主な目的であつた。稀には桃色の寝巻や長襦袢を失敬することもあつたがこれ等とて、何でもよいと云う訳のものでは勿論ないので白と黒、ズロオスは二種に限り、腰巻も桃色と赤と白と青は好まなかつた。と云うのは白や青の蹴出し類は中年女か老年期の女性の所有物で、若い嫁入り前の娘は赤桃色を締めるに限られているからである。これは二年間に亘る処々の浴場覗きの経験から割り出した私の統計に依つて立證出来るのである。

然もこの一枚といえど、持ち主の分らぬ下着は無いのである。皆それ〴〵立派に顔を覚え、体臭さえ、思い出せそうなものばかりなのであるから大変なものである。と云うのは、私は盗む前には必ず、一人に眼をつけ(この場合、美貌でない女性のものは絶対に手をつけなかつた)よしと断定したものばかりであるからもし無闇矢鱈と手を出して集めたなら、恐らく千枚を越える蒐集も可能であつただろうと思われる。

私はこのコレクションに當つて念願を立て、美人条件として処女(もしくは嫁入り前の娘を目的とし、パンパンや淫売女、飲屋、カツフエ、キャバレーに勤める女達の物は極力さけた)にのみ限定し止むを得ず、特に際立つて美しい人妻、それも子供の無い結婚後何年も経てないものを狙つて、これ等のズロオスや腰巻月経帯を盗んだのである。書き忘れたが月経帯は不思議と集まるもので、七十一枚各種の形態のものをコレクト出来た。ズロオス形、パンティ形、純然なる月経バンド、手製のもの、新品、汚れの落ちぬ物、さまざまである。ズロオスにも、地の厚いネルやメリヤス、綿といろくで、自身で縫つたもの、ミシン掛けで作つたもの、デパートや洋品店で購入したもの、一ト眼で見分けが付き、最近型のパンティは盗むに恰好な品であつた。これは型が小さいし、生地が薄いのでボケ

ツトに染み入るし、乾きも早かつたのでウエストの肥大大型のズロオスのように腰の中程まであるような古い型のズロオスと違つて、かさばらず、従つて人にとがめられる危険性も少なかつた訳である。大抵のズロオスは、股下の大事な処に当る部分が黄色くしみになつて居るのが普通で、時に黒っぽい汚れが付着しているものもある。これはメンスの折の経血が主だろうと思われる。私の蒐集ズロオスの中には、まだ一、二度しかはめてない新品同様の汚れ一つないのが十八枚もあつた。然もこの持ち主は、美容院の女が一人で、私に五枚まで新品を次ぎ盗まれているのである。

或る政治家の令嬢も三枚続けて新品を盗まれ、最後の晩のは手製のズロオスでそれ以後、夜間は乾かさぬことにしてしまつたらしい。新品は全部股下を締めているゴムを引き抜いて男物に見せかけて私が使用し、その他のものは全部切りきざんで既に今日では手許にない。屑屋が八十円で二十五年の暮れ、持つて行つてしまつたからである。長襦袢や腰巻は、身体に巻きつけ汚したものを切り裂いて新聞紙に包んで赤羽や十条辺に出掛けて橋の上から捨ててしまつた。

扱てこうした蒐集のうち、面白かつたものから、当時の模様を述べてみよう。二十二年の春から二十五年の暮まで、満三年間に及ぶ下着類の盗癖は、ついに一度も警官に発見されたり、追跡されたりしたこともなく、一応私の変態史にピリオドを打つことになつたのである。然し不幸にして今日に至るも、もし獨身で起居せんか、他時が罪業の身の自由ではあり得ぬ日が因果の糸を……(次号へ)

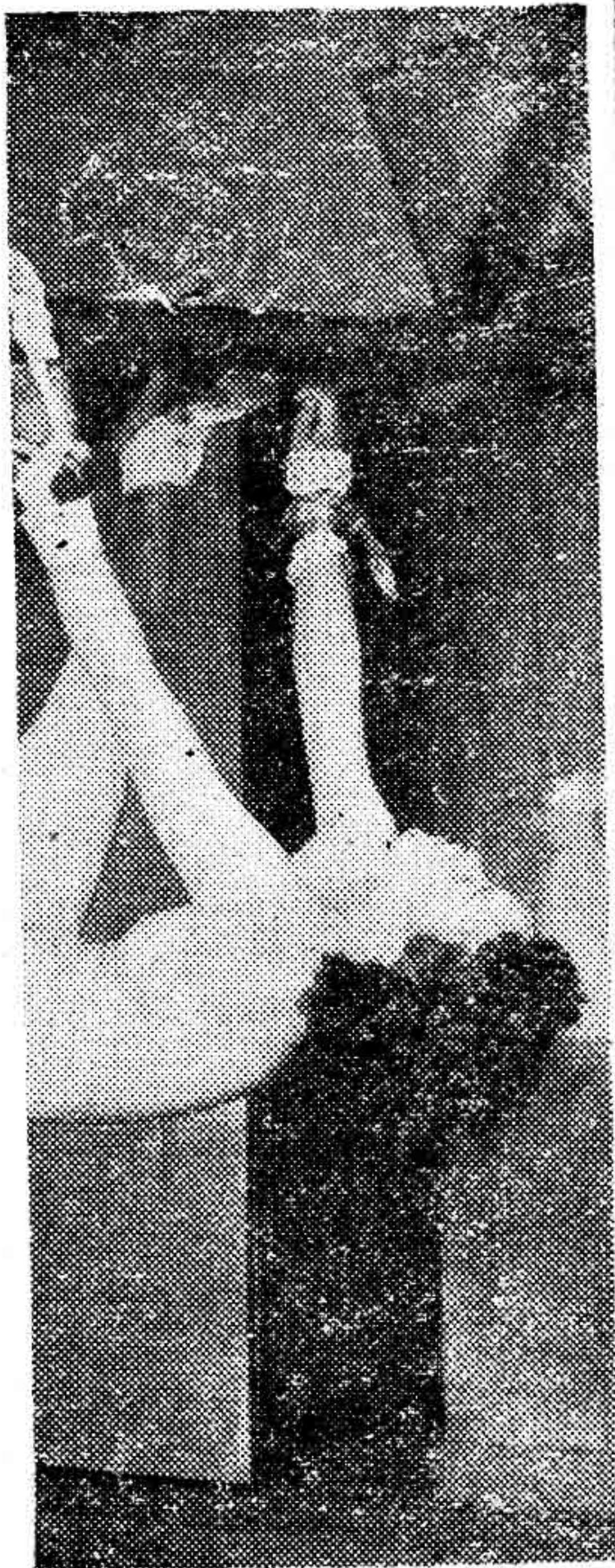


編集部へ
物申す

私は従来あらゆる猟奇的な読物を漁つて参りましたが公刊誌としては奇クが一番びつたりとて、今では肌身離せぬ無二の伴侶となつて居ります。扱て私は只今でも東京の或る会の会員となつていますが、今迄会費だけ送つて何も送つて貰わぬうちに夜逃げ同様に持ち去られた経験もあり、今回貴社に於いて特別会員の募集をされるに際しても、十分此の点を注意されて永続性のある企画をされるよう望みます。勿論読者としての私達の希望としては華やかな大々的なプランであつと云わしてほしいのですが、龍頭蛇尾に終つたりするようであれば期待が大きいただけにその失望や怒りは大きいものであると思ふのです。私は奇クに一番期待し必ずや新境地を拓かれるものと確信して居りますので線香花火式にならない様呉々も最初からお願ひしておきます。

(佐賀伊一)

○御答へ○
佐賀氏と同じ主旨の御意見及び御照会を多数頂戴いたしましたので一括してお答え申し上げます。前回予告しました特別会員の募集については、その規模内容に関して甲論乙駁、中々決定致しませんでしたが、既に御承知の通り、本誌並に本通信に於いても極めて地味な取扱いで特に煽情的にあつたり誇大に殊更に広告したりするような事は厳に戒めて参り



代理部だより

縛られた女の写真・分譲
光沢面 焼付五枚一組(一集分)二百円
印刷紙 (送料共)

○第五篇(四十一集より五十集迄) 十集
○第六篇(五十一集より六十集迄) 十集
○第七篇(六十一集より七十集迄) 十集
○第八篇(七十一集より五五集迄) 五集

○以上各集共一集分各々五枚一組です
集を重ねることに充実発展して参りました本誌獨特の縛られた女の写真は、愛好者の間に好評を博しまして、優秀なコレクションとしての役目を果して参りましたが、其後引続き猿轡や道具を用いたもの、鎖にて縛つたもの等を発表、その特異な緊迫美の雰囲気は見る者をして恍惚境に誘い込んで居ります。

多数読者の要望を取り入れて特に会員分譲用として腕によりをかけて最近撮影したすべて未発表の粒よりの逸品揃いでどうぞ御安心の上御申込下さい。海老責、柱しほり、猿轡つわ、ローソク、高小手、逆合掌、ストッキング、長襦袢十字罫、棒責め、拷問台、ハシゴ、吊り下げ、アグラ、芋虫、ムシロ、折檻、腰巻、逆立、荒縄、絞首台、椅子、等

★襲われる女★

十二枚一組五百円(送料共)

此れは暴漢に襲われる美少女の恐怖の姿態を縄と鎖をアクセサリに用いた得難い作品です。(シリーズ十二態)

吊し責の三態

特選焼付写真 三枚一組

キヤビネ版 五百円

此れは今迄一度も発表しなかった事のない、とつて置き各種吊し責め姿態中、最も興味あるものを選びました。御申込次第厳重荷造の上急送致します。

第一組、第二組共に大好評！
新版第三組完成分譲中

◎鎖を纏った女◎

豊満な白磁のような女体の肌に喰い入った鎖の醜しき微妙なコントラスト、鎖をまとった女体の美しさを追究してここに五枚一組の写真二組完成しました第一組第二組(五枚一組)二百円(送料共)

◎縛られた女を描く写真集

キヤビネ版、四枚一組二百円(送料共)
三組計十二枚あります。

三月号補遺抄

(三六頁上段二行から) 私は太股に煩うりし又接吻して遂にスポンを濡らしてしまいました。(三七頁上段二行から) 彼女の両脚が弛んだときに私は猶も首を奥へすゝめて白いブロースをかむつたコンモリした丘へ頬を寄せつけました。(三九頁下段九行から) 彼女は私の目の前で白いブロースをかなぐりすてました。「畜生だからこうして見せたつてちつとも羞しきなんかないわ、さ、私が許すまでお前は私の御機嫌をとるのよ、途中で止めたりしたら承知しないから」春美は鮮かに私の鼻と口をびつたりとぶささました(三九頁下段二行七字目より)そしてその重壓は曾つて慕盤や火鉢を抱えた時よりも遙かに重く快く私の顔面全体にのしかゝつて来ました。(三九頁下段一六行より) 私は口を大きくあけ舌を出し来る範囲で大きく動かし舌を舐め廻しました。あゝ、この味は何とも表現出来ません。(三九頁下段二〇行より) 彼女は私の顔を見つめたまま静かに腰を揺り動かせました。(三九頁下段二三行から) 三十分四十分、彼女の唇はふるえ、物狂わしく私の舌を愛撫し更にもつと濃密な愛のエッセンスを口うつしに吸わせてくれました。(四三頁下段二行目)「何べんほどやった」(四三頁下段二行目)あれをやつていたのだらう(四三頁下段一五五字目から)丸裸のまゝ、(四四頁二三行十字目から)女の一着着しい所を、(四四頁中段一行十字目から)興奮して(四四頁中段五行目の最後へ)のあそこ、(四四頁の下段最初の行へ)そんな羞しい恰好をさせられ乍ら女の生理の

かなしさといふますか我知らず喜悅の悲鳴を洩らすのをお美代はやく見乍ら手でお尻をびしやりとほりどぼし「こいつ、浅間しい。喜んでやがる。お仕置の途中で助平なあまつちよだ、この名前はどうした。「そこは××」「そこは××」(四四頁下段二三行より)私の処女はこのように男にはなく同性の女によつて開かれたのでした。(四九頁二四行二行目から)私の汚い臭の所で、(四九頁中段八行から)お美代はうれしそうな顔で京子の毛を一本の鉛筆にまきつけて、つんつんと引き張り、しまいにとうくくつと力を入れて引き抜いてしまふのです(四九頁下段一行一四四字目から)一本残らず引きむしるまで(以下省略)

◎玲子さんの画室訪問◎

今度眞田編集長が雪の降る中をわざと京都迄足をのばされて玲子さんに膝詰談判の結果、持つて帰られたお土産が玲子さんの画室訪問でした。さて果してどのような素晴らしい口繪が出来上がるやら今から楽しみです。

本誌直接購読会員募集

奇譚クラブを毎月確実に書店販売前に入手される為には直接購読会員におなり下さるご便利です。KK通信を無料贈呈の他景品贈呈の特典があります。(KK通信のみの送附を望まれる方は半ヶ年分実費百円で直送致します)

三月分(三冊)	三百円
半年分(六冊)	六百円
一年分(十二冊)	千二百円

送料共
品 半年分買められる女の写真三枚一組 八枚一組 景 一年分

ました。従つて右の件に關しましても大地に両足を踏んで一歩一歩前進してゆくという地道な方法でやつてゆく考えでありますから、或は一部の方々から物足りないとか、特別に会費を取つてもいいからもつと頁数の多いものにしてほしいとかの要望があると思うのですが、只今のところ読者を裏切らない確実な発刊を第一目的として頑張つて参りますから、そのおつもりで御支持の程御願ひ致します (M生)

貴社分譲の写真集を毎々御送付頂きたいつも非常な感激を以つて拝見致して居ります。本日は担当の辻村様に私の縛られた女の写真に對しての意見を述べさせて頂きたいと思ひます。先ず只今分譲されているものは相當の種類に上りますが、何篇何集にどの様な恰好で縛られたのがあるのか全然わかりませんため、申込みの際一々長々と自分の好みを述べ、代理部で選擇して頂くわけですが、一集分五枚一組は同じ傾向のもので揃えて名稱をつけて貰うとか、或は極小型の写真にして見本を作成して頂くとか、それが出来なければ略圖等で示して頂ければどんなに都合が知れません。それから今迄送つて頂いた写真の中縛られた女は裸であるか腰巻のものが多かったですが、私はブロースを穿いたものシユミーズを纏つたもの或は完全に洋装した上から縛つたもの等を欲しいと思ひます。京都KR生〇御返事〇 分譲写真の見本とか説明書きについて従来度々要求されて居りますが、未だに完成しないで居りますのは甚だ相済みないと思ひます。ヌードのものが多いとの事ですが比較的希望者の多いものを最初に手がけましたが、今後は御指摘の着衣のものも漸次加えてゆくように致しますからどうぞよろしく (S)



地獄絵

(5) 行田和子

キリキリと滑車が鳴り、太いロープが重造の手元に引かれて、君子の縛られた後手の縄と結び合わされてしまいました。「ソーラ。立つんだ、立つんだ。これから真つばだかのお嬢さんの裸踊りの始まりとさーい」

そんな憎まれ口を叩きながら重造は滑車に通した片方のロープをグイグイと引くのです。

必死に裸身を前にかぶめる君子の悲しい努力も何の効果もありません。一寸二寸とロープは引かれて君子は吊り上げられてゆくのでした。

「アッ!!。あーッ……」

背後に廻された腕の千切れる様な痛み君子は悲鳴を上げて、縮めていた脚を伸ばして足をつけ少しでも身体体重みをたすけようとします。吊り上げられた高さはもう君子が足を伸ばしても足先が畳に付くかつかない位になっていました。その位置で重造はロープを固定して、ウィスキーをかくえて坐り込んでいました。

「ヒツヒツ。こうすれば、よく見えるぜ、どうだいこの素晴らしいなめは……」

淫らな男の眼が何処をなめまわす様にながめているかは、眼を閉じている君子にもはつきりと判るのでしよう。年ごろの娘にとつては、痛みよりも羞しきの方

がより以上耐えられない責め苦だったのです。君子は脚を曲げて、重造の眼から少しでも逃れる様にはかない努力を続けているのでした。

「ホーホー。足を上げると、腕が痛くなるぜ。お嬢ちゃん」

重造のヨダレの垂れそうな憎まれ口。悪魔の言葉の通り、君子のしなやかな腕は身体体重みをうけて耐えられぬほど痛んでくるに違いありません。

腕の痛みを休める為に足を畳につけると重造の眼が……。

そんなことを約三十分ばかりも続けたでしようか、私はもう頭の中があまりのひどい刺激の為にジンジンと鳴つてあたりが灰色に見えたり、赤い色に映つたりとても耐えられない混乱の中にさまたつていたようなのですが……。

その私の悪夢の様な痺れかけた視界の中に、君子の真つ白い、ピチピチした裸身が悲鳴を上げながら必死に羞恥の踊りを踊っているのです。それは決して君子が我から進んで踊っているのではありません。悪魔のいやらしい手が、吊るされた君子を厭が応でも踊り廻らなくてはならない様なことをするからでした。

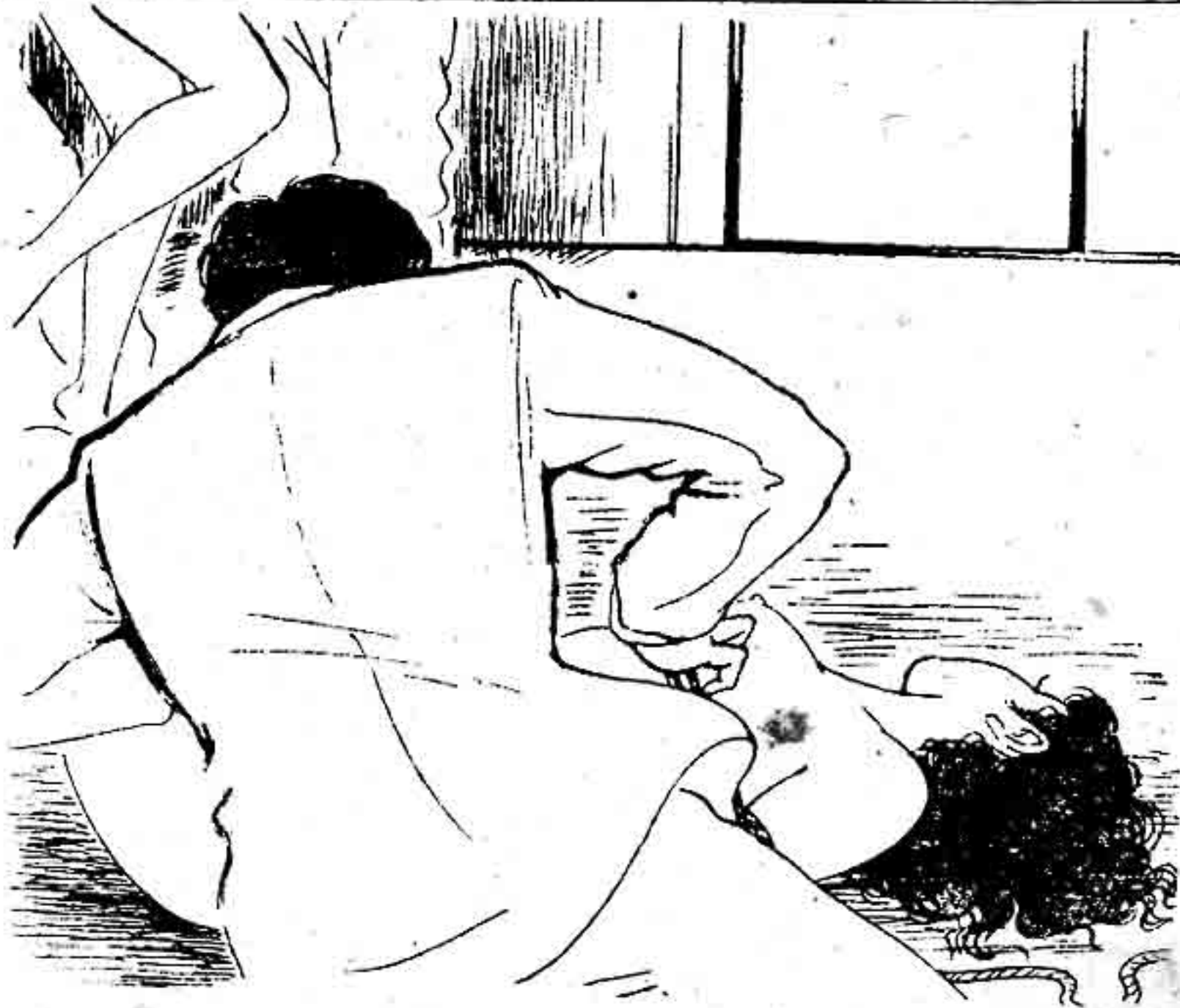
悲鳴と、そして重造の下卑た笑い声とが交錯して、私はその無残さに耳を覆いたい気持でしたが……あゝ。床の間の柱に半裸のまゝ縛られその上猿轡までかま

されている身でどれほどのことが出来ましようか。

そんな場所へ姉嬢の喬子が、重造の乾分たちに引きずられて来たのです。

喬子はあの地下室での拷問椅子の責め苦の後、丸裸のまゝで今まで此の荒くれ男達にどんな羞しいことをされて来たのでしょうか、美しい裸身は無残に汚されて、髪も乱れ息も絶えだえて打ち倒れたまゝ、私の姿も君子の姿も見わけることすら出来ないのです。

「ホホウ。こいつア、すげえや」



喬子を運んで来た乾分たちは、重造が弄っている君子の吊るされた姿を見て口々に、あの時喬子に云つた様な卑ワいな言葉を投げつけて寄つて来ました。

「手前ら、本当に仕様のねえ奴だ。また新しいお人形が欲しくなつたんだ」

こんなことを云う重造の言葉に、男達は聞くに耐えない様な応答をしながら君子の気遣い踊りに油をそそぐ様に十本の指をいやらしく曲げて、それく好む場所を擦り撫でまわしはじめるのです。

「ヒツツ。ヒツツ」

特別会員

募集について

一、資格

奇譚クラブ直接購読者又はKK通信直接購読者にして本誌の狙いに対して趣味を持たれる成年男女。

二、会費

特別会員としての会費は一切不要です但し別項の催物等ある場合は、その都度これに参加された方のみ会費を頂戴いたします。

一、特典

○特別分譲品の斡旋及び紹介

○座談会・展示会・交換会等の参加

○趣味文書の分譲

○本誌に発表された作品の伏字の解明等を定期的に行います。

○同好者に対する信書の斡旋(これは従来一時中止して居りましたが特別会員に限り行うことになりました。但し郵便料金は負担して戴くこと)

○本誌に対する会員の通信、投稿は優先的に掲載いたします。

一、機関誌

機関誌としては当分の間KK通信をこれにて、将来出来得れば会員諸氏の御支援によつて頁数も増大して行きたいと思ひます。

○申込用紙は本号KK通信に挿入してあります。

○郵便物等の不着事故防止のため、御住所御氏名は楷書で明瞭にお書き入れ下さい

○会員番号は決定次第お知らせ致します

○其の他必要なる事項は追つてその都度お知らせいたします。

大阪府堺市菅原通四丁目三〇

曙書房内読者係宛